

目 次

介護福祉科 1年

A 厚生労働省指定科目

人間の尊厳と自立	目黒 紀美代	3
人間関係とコミュニケーション (コミュニケーション概論Ⅰ)	小 野 千 晴 山 根 英 香	4
社会の理解(社会学概論)	池田 ひろみ	5
社会の理解(高齢者福祉論)	吉 田 忠 司	6
社会の理解(介護保険法)	吉 田 忠 司	7
法学	町 田 幸 作	8
経済学	村 中 典 彰	9
介護の基本(介護概論Ⅰ)	小 野 千 晴	10
介護の基本(リハビリテーションⅠ)	伊 藤 隆	11
介護の基本(家政学概論)	辻 慶 子	12
介護の基本(レクリエーションⅠ)	長 屋 敦 志	13
コミュニケーション技術演習Ⅰ	山 根 英 香	14
生活支援技術(入浴・清潔・身支度の介護)	柳 沼 輝 己	15
生活支援技術(移動Ⅰ)	長 屋 敦 志	16
生活支援技術(食事Ⅰ)	吉 田 陽 子	17
生活支援技術(排泄Ⅰ)	吉 田 陽 子	18
生活支援技術(家政Ⅰ)	辻 慶 子	19
生活支援技術(睡眠)	柳 沼 輝 己	20
生活支援技術(障害者ケア)	古 山 和 高 澤 淳 子	21
生活支援技術総合Ⅰ	柳 沼 輝 己	22
介護過程Ⅰ	長 屋 敦 志	23
介護総合演習Ⅰ	柳 沼 輝 己	24
介護実習Ⅰ	柳 沼 輝 己	25
こころの理解	渡 辺 舞	26
からだの理解	矢 野 由 紀	27
こころとからだのしくみⅠ	赤 坂 結 美 子	28
発達と老化の理解(人間発達学)	川 島 志 緒 里	29
発達と老化の理解(老齢健康論Ⅰ)	奥 野 啓 子	30
認知症の理解Ⅰ	宮 下 史 恵	31
障害の理解(障害者福祉総論)	高 澤 淳 子	32
障害の理解(障害者福祉各論Ⅰ)	古 山 和	33

B 本校独自教科

手話	町 田 幸 作		34
国語総合演習Ⅰ	浦田 日出雄		35
応対論Ⅰ	三品 あおい		36
パソコン演習	忽滑谷 夕鶴舞		37
体育Ⅰ	浦田 日出雄		38
就職ガイダンスⅠ	長 屋 敦 志		39

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
人間の尊厳と自立	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
目黒 紀美代	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護に携わる専門職としての知識や技術の基盤となる理念、「個人の尊厳」や「人権・権利擁護」について学び、尊厳を守る介護及び自立支援の関係性の理解を深める。		
到達目標		
「人権」や「尊厳」を言葉で表現することは難解ですが、尊厳を守る介護と自立支援の関係性について理解でき、専門職像の確立ができるようになる。		
受講の心構え		
グループワーク形式で講義を進めます。皆様の積極的な発言やグループワークでのルールを守り、建設的な討議等をお願いします。		
成績評価基準		
1. 試験：授業最終日実施 2. レポート：1 2 0 0 字以上 1 6 0 0 字以内 3. 授業参加姿勢等も成績に加味させていただきます。		
授業計画表		
1. オリエンテーション：科目履修の意義「人間の」多目的理解 2. 人間の尊厳と利用者主体 3. 人権思想の潮流とその具現化 4. 人権や尊厳に関する日本の諸規定 5. 人権・福利理念の変遷①・② 6. 人権尊重と権利擁護 7. 人権思想から人間の尊厳についての考察（演習） 8. 自立の概念と多様性 9. 自立（自律）とは 10. 介護を必要とする人々の自律と自立支援 11. 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自律支援の関係性① 12. 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自律支援の関係性②～事例から考える～ 13. 利用者の主体性を大切にしたい声かけ、自立支援について考察する（演習） 14. 演習の振り返り（発表） 15. 試験		
使用テキスト・参考文献		
1. 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 中央法規 2. 中央法規出版編集部 『介護福祉用語辞典』 中央法規 3. 配布資料 4. 各自所有の国語辞典等		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
人間関係とコミュニケーション (コミュニケーション概論Ⅰ)	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴 山根 英香	授業内容にかかわる実務に社会福祉士(小野) 社会福祉士(山根) として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護は人間関係の中で実践されています。それは介護者と利用者だけではありません。人間関係とは何かを学び、自分についても知り、意図的なコミュニケーションができるようになることを目指します。(小野) 介護福祉士に必要なコミュニケーションを理論的に学びます。様々な場面でとるべきコミュニケーションの理由を理解し、実務につなげていく基礎をつくることを目指します。(山根)		
到達目標		
人間関係の中で自分と他者を理解し、自己覚知や自己開示について理解する。(小野) 介護福祉士にとって必要なコミュニケーションの種類や場面、技術を理解する。(山根)		
受講の心構え		
他人を理解するためには、自分を理解することが大切です。自分と向き合い、長所も短所も認めましょう。(小野) 学んだことを日常生活においても実践し、知識を定着させるようにしてください。(山根)		
成績評価基準		
講義への出席(25%) 参加態度(25%) 小テスト(50%) の割合で総合的に評価します。		
授業計画表		
小野 1. オリエンテーション、人間と人間の理解(人間らしさのはじまり) 2. 人間と人間関係(自分と他者の理解) 3. 人間と人間関係(発達心理学からみた人間関係) 4. 人間と人間関係(社会心理学からみた人間関係) 5. 人間と人間関係(人間関係とストレス) 山根 1 対人関係におけるコミュニケーション① 2 対人関係におけるコミュニケーション② 3 対人関係におけるコミュニケーション③ 4 対人援助関係とコミュニケーション① 5 対人援助関係とコミュニケーション② 6 対人援助関係とコミュニケーション③ 7 組織におけるコミュニケーション① 8 組織におけるコミュニケーション② 9 組織におけるコミュニケーション③ 10 総括		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会 『介護福祉士養成講座 1 人間の理解』 中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（社会学概論）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
池田ひろみ	－	
科目のねらい		
個人・家族・社会の関係について理解する。 社会の中で生きていることの意味を考える。 自分の身近な問題や課題を社会との関わりの視点で考える習慣を身につける。		
到達目標		
社会の仕組みについて、基礎知識を理解し、自身の仕事や生活に役立てる。 自分の意見や感想を他者に伝えるために言葉で表現する力を養う。 社会の一員として生きていく心構えを養う。		
受講の心構え		
配布資料はファイリングして全授業に持参すること。 自分の意見を他者に伝える努力を惜しまず、積極的に言葉で表現する習慣を身につけること。		
成績評価基準		
授業内の課題 30%、授業内の発言内容と態度 30%、筆記試験 40%		
授業計画表		
1. 自己紹介とオリエンテーション 「福祉とは」「社会とは」を考える 2. 社会規範について考える 3. 個人・集団・社会の関係を理解する 4. 日本の社会の現状を理解する：晩婚化、非婚化、少子化 5. 日本の社会の現状を理解する：超高齢化、世帯の縮小、孤立、介護の社会化 6. 日本の社会の現状を理解する：労働と雇用形態、結婚願望と実態 7. 地域社会の福祉を考える：絆づくり、孤立予防、地域住民同士の支え合い 8. まとめ これからの自分と家族の人生について考える		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解』中央法規出版 授業中に適宜新聞記事等の資料を配布します。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（高齢者福祉論）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 忠司	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
高齢者の生活を支える様々な施策の変遷や現状について基礎的な知識を学ぶ。高齢者を取り巻く社会の実情を理解して、地域共生社会の制度や施策についても理解を深める。		
到達目標		
1 高齢者を取りまく社会や生活の実情について理解できる。 2 高齢者福祉施策の変遷について理解できる。 3 高齢者福祉施策の現状や課題について理解できる。		
受講の心構え		
高齢者のおかれている状況や施策を理解し、幅広い視点で物事をとらえられるようになりましょう。		
成績評価基準		
筆記試験 80%、提出物・授業態度 20%		
授業計画表		
1 オリエンテーション/高齢者のイメージと実際 2 高齢者福祉の歴史と高齢者の生活① 3 高齢者福祉の歴史と高齢者の生活② 4 高齢者福祉施策① 5 高齢者福祉施策② 6 高齢者福祉施策③ 7 地域共生社会 8 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会の理解（介護保険法）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 忠司	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護保険法の目的や背景を学び、介護保険サービスの仕組みや特徴について理解することが出来る。		
到達目標		
1 介護保険法の背景や目的を理解することが出来る。 2 介護保険法の仕組みを理解することが出来る。 3 介護保険法における介護福祉士の役割を考えることが出来る。		
受講の心構え		
介護保険法は、介護福祉士として活躍する際の基本的事項となります。専門職になるための基本的知識を理解し説明ができるようになります。		
成績評価基準		
筆記試験 80%、提出物・授業態度 20%		
授業計画表		
1 オリエンテーション/介護保険法の背景・目的 2 介護保険法の仕組み① 3 介護保険法の仕組み② 4 介護保険法のサービス内容① 5 介護保険法のサービス内容② 6 介護保険法のサービス内容③ 7 介護保険法における各種機関や専門職の役割 8 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
法学	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
町田 幸作	－	
科目のねらい		
社会生活における法の作用や役割について理解する。		
到達目標		
1. 法の成立過程を民主的手続きについての知識を踏まえて学ぶ。 2. 民法規定の概要を知り、法律を基にした具体的な判断の仕方を学ぶ。		
受講の心構え		
法律の知識は、社会の中でよりよく生活し幸せになるために必須です。法的根拠を元に物事を考察し判断する力を身に付けましょう。		
成績評価基準		
試験点数に授業態度や授業への参加状況などの平常点を加味して評価する。		
授業計画表		
1. オリエンテーション 法律とは 2. 民主主義と法の成立 3. 民法総則 4. 消費生活と法 5. 不法行為責任 6. 親族① 婚姻・離婚・親権 7. 親族② 親子・扶養・相続 8. 労働法・福祉現場における人権擁護 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
『ポケット六法』 有斐閣		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年	講義
科目名	授業回数	授業時間
経済学	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
村中 典彰	高等学校での地歴公民科教員 4 4 年	
科目のねらい		
①グローバル化した現代社会において、経済の仕組みを理解する。 ②自らの家計を省みて、収入と支出を知る。 ③国際情勢と石油や小麦などの物価の動きを知る。 ④銀行の預金と借入金の利息が世の中に与える影響を知る。 ⑤政策の変更によって税制が見直され、所得税や住民税、消費税の金額が変わり、住宅資金の返済額も変わることを理解する。		
到達目標		
経済学が扱う事柄に直面した時に、適切な判断を行うためにはしばしば利子や税金などといった経済学と深いかかわりを持つ事柄についての知識が必要になります。この講義の目標は、経済学を学ぶことを通して日常生活で出会う経済事象への理解を深めることにあります。		
受講の心構え		
適宜課題を提出してもらいます。 身の回りの物事が経済とどのようにかかわっているのかに関心を持ってみましょう		
成績評価基準		
試験・提出物：： 8 0 %、授業態度・出席状況： 2 0 % 期末に試験を行います。		
授業計画表		
1. 経済学とは 2. マクロ経済学について（利潤と GDP） 3. ミクロ経済学について（需要・供給と均衡） 4. 自由な市場の長所と短所（資本主義経済と社会主義経済の比較） 5. 公共財と税金 6. 貨幣と利子（ビットコイン・クレジットカード・PAY PAY などの仕組みと活用） 7. リスクと保険 8. グローバル化と北海道の活性化		
使用テキスト・参考文献		
テキストは特に使用しません。毎時プリント・資料を作成します。 参考文献は適宜紹介します。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
介護の基本（介護概論Ⅰ）	3 0 回	6 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
小野 千晴	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護福祉とは何かを学ぶ科目です。介護を必要としている人の現状や介護福祉士の役割、介護に関する法律やサービスの種類など幅広く学びます。		
到達目標		
・介護福祉とは何かを理解できる。 ・介護福祉士の役割と機能について理解できる。 ・介護を必要としている人々の生活とそれを支えるためのサービスについて理解できる。 ・自立支援の考え方について理解できる。		
受講の心構え		
介護福祉について、テキストだけではなく、新聞やテレビ、インターネットからもさまざまな情報を得ることができます。意識して情報収集をしましょう。		
成績評価基準		
試験 8 0 % 提出物 1 0 % 授業態度 1 0 %		
授業計画表		
1. オリエンテーション 2. 介護福祉の基本となる理念（介護福祉を取り巻く状況） 3. 介護福祉の基本となる理念（介護福祉の歴史） 4. 介護福祉の基本となる理念（介護福祉の基本理念） 5. まとめ・グループワーク 6. 介護福祉士の役割と機能（社会福祉士及び介護福祉士法） 7. 介護福祉士の役割と機能（介護福祉士の活動の場と役割） 8. 介護福祉士の役割と機能（介護福祉士の求められる役割とその養成） 9. 介護福祉士の役割と機能（介護福祉士を支える団体） 10. まとめ・グループワーク 11. 介護福祉士の倫理（介護福祉士の倫理） 12. 介護福祉士の倫理（介護福祉士会の倫理綱領） 13. まとめ・グループワーク 14. 自立に向けた介護（介護福祉士における自立支援） 15. 自立に向けた介護（ICF の考え方） 16. 自立に向けた介護（自立支援とリハビリテーション） 17. まとめ・グループワーク 18. 介護福祉を必要とする人の理解（私たちの生活の理解） 19. 介護福祉を必要とする人の理解（介護福祉を必要とする人達の暮らし） 20. 介護福祉を必要とする人の理解（「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解） 21. 介護福祉を必要とする人の理解（生活のしづらさの理解とその支援） 22. まとめ・グループワーク 23. 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（利用者の生活を支えるしくみ） 24. 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（生活を支えるフォーマルサービスとは） 25. 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（生活を支えるインフォーマルサービスとは） 26. 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（地域連携） 27. まとめ・グループワーク 28. グループワーク 29. 発表 30. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ』中央法規 介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
介護の基本　リハビリテーションⅠ	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
伊藤　隆	－	
科目のねらい		
リハビリテーションの中で介護福祉士が担う役割について学び、日常的な介護の中にこそリハビリテーションがあるという高い意識を身に付ける。		
到達目標		
1．リハビリテーションの理念を理解する 2．リハビリテーションチームの中で介護職が担う役割を理解する 3．リハビリテーションに関わる福祉用具や環境整備などについて知識を持つ 4．疾患別障害像を理解し、障害別リハビリテーションにおける特徴を捉える 5．リハビリテーション介護を理解する		
受講の心構え		
毎回、講義の最後に小テストを実施して理解の確認を行ないます。 授業は集中して受講し、私語は慎み他人に迷惑のかからないようにしましょう。		
成績評価基準		
期末テスト		
授業計画表		
1．リハビリテーション概論 2．リハビリテーションの領域と役割 3．障害の体験とその対応（演習） 4．福祉用具と環境整備 5．身体機能の障害とその理解 6．認知機能の障害とその理解 7．リハビリテーション介護 8．まとめ		
使用テキスト・参考文献		
スライドと配布資料		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
介護の基本（家政学概論）	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
辻 慶子	－	
科目のねらい		
1． 家庭生活の重要性を理解したうえで、時代によって変化する家庭生活の形態に対応できるようにする。 2． 高齢者・障害者にとって、より良い家庭生活を送ることが、生活の充実と向上につながることを理解する。		
到達目標		
1． 自分自身の生活を見直し、家庭管理に必要な技術の習得を目指す。 2． 高齢者や障害者の身体的・精神的な特徴を理解したうえで、修得した技術を有効に生かせるようにする。		
受講の心構え		
1． 課題プリントは、必ず完成させたものを、期日までに提出すること。 2． ノートはしっかりとること。（ノート提出あり）		
成績評価基準		
テスト 9 0 %、課題プリント及び授業態度 1 0 %		
授業計画表		
1． オリエンテーション、家庭経営と家庭管理の重要性 2． 家庭・家族の役割 3． 時代によって変化する家族関係と介護者 4． 生活時間（高齢者との比較） 5． 生活設計 6． 家計管理 7． 消費生活 8． 食事の意義 9． 基本的な調理技術 10． 掃除・片付け 11． ゴミ捨てとリサイクル 12． 被服材料の特徴 13． 高齢者・障害者に適した被服と基本的な修理方法 14． 洗濯・しみ抜き 15． まとめ		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリント配布 参考文献：『福祉のための家政学』		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
介護の基本 レクリエーションⅠ	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
レクリエーション活動を用いて基本的な考え方を学ぶ 心を元気にするレクリエーション支援の理論と方法を学ぶ		
到達目標		
1. 人が楽しさを感じ、元気を回復する心の仕組みが理解できる。 2. コミュニケーションを柱に、個々の信頼関係づくり、互いに認め合える良好な集団づくり、成功体験から自主性・主体性を育む方法を展開できる。		
受講の心構え		
レクリエーション支援者として「自ら楽しむ・味わう・雰囲気作りができる」を目指す。		
成績評価基準		
筆記試験 50%・演習課題、発表 30%・受講態度 20%		
授業計画表		
1 レクリエーション概論 2 楽しさと心の元気づくりの理論 1 3 楽しさと心の元気づくりの理論 2 対象者の心の元気づくりの課題 4 レクリエーション支援の理論 1 信頼関係づくり 5 レクリエーション支援の理論 2 良好な集団作り 6 レクリエーション支援の理論 3 自主的・主体的に楽しむ 7 信頼関係を築く方法 8 信頼関係とホスピタリティ 9 アイスブレイキングと良好な集団作り 10 アイスブレイキングの効果を高める技術 11 自主的・主体的に楽しむ方法 1 ハードル設定・CSS プロセス 12 自主的・主体的に楽しむ方法 2 ハードル設定を設けたプログラム作成 13 自主的・主体的に楽しむ方法 3 プログラムのアレンジ 14 自主的・主体的に楽しむ方法 4 プログラムの計画・実践 15 自主的・主体的に楽しむ方法 5 リスクマネジメントとプログラム		
使用テキスト・参考文献		
日本レクリエーション協会 『楽しさをとおした心の元気づくりレクリエーション支援の理論と方法』編著者名『書名』出版社		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
コミュニケーション技術演習 I	1 5 回	2 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
山根 英香	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
① 介護福祉士としてのコミュニケーションスキルを理解し演習する ②介護現場におけるコミュニケーションスキルを理解し演習する		
到達目標		
介護場面において意図的なコミュニケーションをとることができる。		
受講の心構え		
演習は学生の皆さんの参加で成立します。積極的に受講されることを期待します。		
成績評価基準		
講義への出席（25％）参加態度（25％）小テスト（50％）の割合で総合的に評価します。		
授業計画表		
1 オリエンテーション 利用者・家族との人間関係におけるコミュニケーション① 2 利用者・家族との人間関係におけるコミュニケーション② 3 利用者・家族との人間関係におけるコミュニケーション③ 4 利用者・家族との人間関係におけるコミュニケーション④ 5 多職種との人間関係におけるコミュニケーション① 6 多職種との人間関係におけるコミュニケーション② 7 職場での人間関係におけるコミュニケーション① 8 職場での人間関係におけるコミュニケーション② 9 多職種との人間関係におけるコミュニケーション③ 10 障がいをもった方とのコミュニケーション① 11 障がいをもった方とのコミュニケーション② 12 コミュニケーション力を高めよう① 13 コミュニケーション力を高めよう② 14 事例検討会 15 総括		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（入浴・清潔・身支度の介護）	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
柳沼 輝己	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
入浴・清潔保持・身支度は、快適な生活をするうえで欠かすことのできない行為です。方法だけではなく介護の根拠を理解し、将来の生活にどう影響するかを考え、実践できるようになります。		
到達目標		
1. 自立に向けた身支度について理解し、実践できる。 2. 自立に向けた入浴・清潔について理解し実践できる。 3. 入浴・清潔・身支度の重要性を理解し、個別対応の実践ができる。		
受講の心構え		
プライベートに関することが多い事業です。介護者としての振る舞いについて考え続けましょう。		
成績評価基準		
定期試験 60%実技習得度・授業態度 20%・レポート・ミニテスト 20%による総合評価		
授業計画表		
1 オリエンテーション 自立した身支度とは（意義・流れ・すべきこと） 2 自立に向けた身支度の介護（衣服の着脱の介助）① 3 自立に向けた身支度の介護（衣服の着脱の介助）② 4 自立に向けた身支度の介護（衣服の着脱の介助）③ 5 自立に向けた身支度の介護（口腔ケア・洗顔） 6 自立に向けた身支度の介護（整髪・ひげ、爪、耳の手入れ、化粧） 7 身支度の介護における多職種との連携 8 自立した入浴・清潔保持とは（意義・流れ・すべきこと） 9 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（個浴・機械浴・シャワー浴）① 10 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（個浴・機械浴・シャワー浴）② 11 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（個浴・機械浴・シャワー浴）③ 12 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（清拭・手浴・足浴・洗髪）① 13 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（清潔・手浴・足浴・洗髪）② 14 身支度の介護における多職種との連携 15 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅰ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（移動Ⅰ）	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
人の動作や身体の使い方の体験を通して、技術を習得します。介護を受ける人が心地よい介護を目指します。		
到達目標		
1. 人間の生理的な機能を理解する 2. ボディメカニクスとは何かを理解する 3. 利用者が動ける移動介護を理解する		
受講の心構え		
介護技術は、利用者にさせるものではなく、利用者が出来るようになる技術です。根拠とは何か、演習や介護技術検定から体験的に学びます。 日頃から身体の動きを意識しながら、利用者その人にとっての生活とは何か、考えることを継続します。		
成績評価基準		
定期試験（60％）実技習得度 20％・レポート,ミニテスト 20％による総合評価		
授業計画表		
1. オリエンテーション、自立に向けた移動の介護 2. ボディメカニクス、生理学的運動 3. 車椅子の使い方（名称・基本動作・注意事項） 4. 車椅子の使い方（屋外での体験） 5. 移動の介護の基本 6. 体位変換（側臥位、仰臥位、ベッド上での移動）① 7. 体位変換（側臥位、仰臥位、ベッド上での移動）② 8. 安楽な姿勢（ポジショニング） 9. 起き上がり（仰臥位から端座位） 10. 立ち上がり（端座位から立位） 11. 歩く（立位から歩行） 12. ベッドから車椅子（移乗介助） 13. 離床介助の流れ 14. 事例を通した移動介護① 15. 事例を通した移動介護②		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（食事Ⅰ）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 陽子	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
食事の意義と目的、栄養と食事の基礎知識について学び、適切な食事介護の方法や様々な工夫ができる視点を身につける。ICF の視点を活用した利用者の状態像の理解から、生きるため、さらには意欲的な生活につながる食生活について考える。		
到達目標		
1. 食えることと人間らしく生きることの深い関係について理解する。 2. 自立に向けた食事介護の基本的な進め方について理解する。 3. おいしく安全な食生活を支える他職種との連携について理解する。		
受講の心構え		
人間の生活における食事の本来のあり方を考え、その人らしい生き方につながる食事介護とは何かを考えながら学習してください。		
成績評価基準		
実技演習の取り組み・事例検討に関する提出物 60%、小テスト 30%、授業態度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション／食事の意義・目的 2. 自立に向けた食事介護の基礎知識 3. 自立に向けた食事介護の基本原則と介護福祉士の役割 4. } 自立に向けた食事介護の実際① 5. } <環境整備と利用者の状態に応じた食事介護>（実技） 6. 自立に向けた食事介護の実際②<誤嚥予防と口腔ケア>（実技） 7. 他職種との連携 8. 事例検討・まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（排泄Ⅰ）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 陽子	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
人間の基本的な生活行為のひとつである排泄を、尊厳に配慮して、利用者が快適に行うことができるよう支援するために必要なスキルを学ぶ。		
到達目標		
1. 自立に向けた排泄介護の基本姿勢や必要な基礎知識、利用者の観察の視点を理解する。 2. 利用者の心身の状況に応じた適切な排泄介護の基本技術を学ぶ。 3. 利用者の尊厳に配慮した排泄介護の留意点について考える。		
受講の心構え		
介護福祉士の姿勢・態度が利用者の排泄行為そのものや精神状態に大きく影響を及ぼす生活場面です。真摯な姿勢で学びましょう。		
成績評価基準		
実技演習の取り組み・事例検討に関する提出物 60%、小テスト 30%、授業態度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション／自立した排泄を支援するという考え方 2. 排泄介護の基礎知識（メカニズムと排泄障害）／排泄介護の留意点 3. 自立に向けた排泄介護の実際①<トイレでの排泄> 4. 自立に向けた排泄介護の実際②<ポータブルトイレでの排泄> 5. 自立に向けた排泄介護の実際③<尿器・便器での排泄> 6. 自立に向けた排泄介護の実際④<おむつでの排泄> 7. 自立に向けた排泄介護における他職種との連携／事例検討 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術（家政Ⅰ）	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
辻 慶子	－	
科目のねらい		
1. 栄養に関する基礎的知識を習得し、食事の意義と健康維持に関しての理解を深める。 2. 高齢者が健全で豊かな生活がおくれるように、生活習慣病と食生活との関係を理解し、予防に努めるようにする。		
到達目標		
1. 日本人の栄養摂取の実情と問題点を明らかにし、健康寿命を延ばすための食生活を理解する。 2. 高齢者向けの食事作りのポイント・適切な食材・注意点を理解する。 3. 調理実習において、基本的な調理技術を習得する。		
受講の心構え		
1. 講義時は、ノートをしっかりとること。 2. 調理実習時には、事前の説明をよく聞き、安全・衛生に注意して行うこと。		
成績評価基準		
テスト 9 0 %、授業態度（実習も含む） 1 0 %		
授業計画表		
1. 講義 オリエンテーション・健康寿命と延ばす日本人の食事摂取基準量 2. 講義 食中毒とその予防 3. 講義 日本人の栄養摂取の実情と問題点 4. 実習 調理実習のポイントと注意点・調理器具調理室の使い方・後片付け・掃除の仕方 米のとぎ方・だし汁の取り方・汁物の作り方 5. 講義 五大栄養素の働きと多く含まれる食品（タンパク質・炭水化物） 6. 講義 五大栄養素の働きと多く含まれる食品（脂質・無機質・ビタミン）、食品成分表の使い方 7. 講義 生活習慣病の食事（高血圧症・糖尿病・骨粗鬆症） 8. 実習 高血圧症の食事 9. 講義 高齢者向きの食事・嚥下の困難な人の食事 10. 実習 骨粗鬆症の食事 11. 講義 バランスガイド 12. 実習 バランスの良い食事 13. 講義 食品の表示と法律・健康食品・機能性表示食品・特定保健用食品 14. 講義 魚・肉の下ごしらえ 15. 講義 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規出版株式会社 日本食品線分表『オールガイド食品成分表 2 0 2 3』実教出版株式会社		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術Ⅰ（睡眠）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
柳沼 輝己	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
睡眠とは何かを理解し、その人らしい睡眠を支えるために何が出来なのかを考えていきます。睡眠が生活に与える影響は何か、根拠を学び実践できるようになるための授業です。		
到達目標		
・睡眠に適切な環境を整えることができる。 ・人間の生活にとって睡眠がどのような意味があるかについて理解できる。 ・睡眠の援助に不可欠なアセスメント項目、睡眠の援助は何を目標に行うかについて理解できる。 ・良質な睡眠のための介護方法、不眠の介護方法について理解できる。		
受講の心構え		
・個人ワークやグループワークを実施することがあります。積極的な姿勢で授業に臨んで下さい		
成績評価基準		
試験 8 0 %、提出物・授業態度 20%		
授業計画表		
1：オリエンテーション・環境整備（ベッドメイキング） 2：環境整備（ベッドメイキング） 3：自立した睡眠とは（目的・効果・特徴） 4：自立した睡眠とは（不眠時の対応） 5：自立に向けた休息・睡眠の介護（湯たんぽなどの役割について） 6：休息・睡眠の介護における多職種の役割と協働 7：睡眠のアセスメント 8：振り返り・試験		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新・介護福祉士養成講座Ⅱ』中央法規出版 江草安彦・岡本千秋 共編 『新版ポケット介護技法ハンドブック』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術(障害者ケア)	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
高澤 淳子 古山 和	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護福祉士として、様々な障害の状態に合わせ、障害のある人の主体的な生活を支えるために必要な援助を考えて介護が実践できるスキルを身につける。		
到達目標		
1. 様々な障害の状態に合わせた介護の留意点を理解し、基本的な支援技術を習得する。 2. 障害のある人の主体的な生活を支えるために必要な支援の実践を考えることができる。		
受講の心構え		
様々な障害のある人の主体的で充実した生活を支えるために、介護福祉士が担う役割について考えながら、そのために必要な技術をしっかり学んでください。		
成績評価基準		
実技演習の取り組み・事例検討に関する提出物 60% 小テスト 30%、授業態度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション/障害の状態や生活状況に応じた生活支援技術とは 2. 視覚障害に応じた介護の基礎知識 3. 視覚障害に応じた介護の実際〈実技演習〉 4. 聴覚・言語障害・重複障害に応じた介護の基礎知識と実際 5. 肢体不自由に応じた介護の基礎知識 6. 肢体不自由に応じた介護の実際①〈実技演習〉 7. 肢体不自由に応じた介護の実際②〈実技演習〉 8. 事例検討〈障害のある人の暮らしを考える〉		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
生活支援技術 総合 I	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
柳沼 輝己	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護は、提供するだけの一方通行ではありません。 介護を必要とする人が何を求めているか、感じ・考え・実践できるようになる授業です。 生活は継続しています。過去・現在・将来がどのように繋がるのか実践や事例から学びます。 また、将来を見据えた行動ができることも目指します。周囲と調整しながら、自主的に行動できるように学びます。		
到達目標		
1. 根拠に基づく介護を調べ、考える力がつく 2. 利用者の体験をし、何を必要としているか気づく 3. 相手の立場になって考える力がつく 4. 適切な報告、連絡、相談をし、調整する力が身につく		
受講の心構え		
実習で何を学ぶか、2 年生の実習体験・報告から介護の考え方を教えてもらいます。 また、自分の体験と他者の体験を確認し、考え方、価値観の違いや幅の広さを養います。 そして、説明する力を磨き、生活について見つめていきましょう。		
成績評価基準		
提出課題 60%・受講姿勢 40%		
授業計画表		
1： 2 年生の実習目標発表・実習直前のグループ発表を聴く 2： 2 年生の実習実践報告・事例に基づく根拠ある介護とは① 3： 2 年生の実習実践報告・事例に基づく根拠ある介護とは② 4： 2 年生の実習報告、実習後のグループ発表 （その人らしさとは） 5： 実習に向けたグループ目標発表 6： 実習報告会 実習中に会った利用者の介護場面を振り返る① 7： 実習報告会 実習中に会った利用者の介護場面を振り返る② 8： 実習報告会 実習後のグループ報告会・自分たちの課題		
使用テキスト・参考文献		
なし		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
介護過程Ⅰ	3 8 回	7 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護の専門性は、介護技法が出来ることではない。『その人らしい』生活を支えるとは何か、介護過程を通じて学び、考える力を養う。 介護福祉士は、客観的で科学的な思考過程と専門知識を用いて自立を支援する関わりが求められる。介護を必要としている「人」はどんな人か、想像するとともに『説明できる』ことを目指す。		
到達目標		
1. 介護過程の意義と目的を理解する。 2. 介護過程の展開のプロセスを理解する。 3. 他の教科で学習した知識を統合して、アセスメントできる。 4. 個別ケアについて、考えることができる。		
受講の心構え		
介護福祉士に求められている『専門性』を育みます。 今までの経験からは理解できないことが沢山あると思います。また、正解を求めると、答えは1つではありません。クラスメイトや様々な人に思いや感情を確認しながら、立場の違いによって、思いや感情がどう変わるのか、考え方の幅を広げよう。		
成績評価基準		
定期試験 40％・ケーススタディ 20％・提出期限厳守 20％・授業態度（グループワークの発言）20％		
授業計画表		
1 オリエンテーション 2～5 介護過程とは（意義と目的、ICFとは、ケーススタディについて） 6～10 情報収集とは（主観・客観、ICFの視点） 11～12 アセスメント、ニーズとは 13～14 目標・計画とは 15～18 事例検討（情報収集） 19～23 事例検討（アセスメント） 24～27 事例検討（ニーズ、目標、計画立案） 28～30 実習中のケーススタディの振り返り（情報整理） 31～32 実習中のケーススタディの振り返り（再アセスメント） 33～36 実習中のケーススタディの振り返り（目標、計画立案） 37～38 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座9 介護過程』中央法規出版 八木裕子著『「ヘルプマン！」に学ぶ 介護過程』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
介護総合演習 I	3 8 回	7 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
柳 沼 輝 己	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
福祉施設を調べ、介護実習の目的を理解し実習に臨む ①利用者理解 ②技術の習得 ③施設理解の 3 本柱を中心に、実習計画を立てる 実習中に意識することや日誌（記録）の書き方・職員への相談方法を学び達成課題を明確にする。 実習の事前・事後・報告会を通して実習の学びを振り返り、自分自身の課題を見つめる。		
到達目標		
1. 介護実習に必要な知識を学習することで目指すものが理解できる。 2. 実習を振り返り、自己覚知することで自分の特性を理解し知識や技術、人間性などの課題を明確にする 3. 人に対して向き合う姿勢や、自分自身の価値観など課題が明確になる		
受講の心構え		
自分の価値観は大切ですが、それだけだと学べる範囲が狭く、独りよがりの介護になってしまう。 迷うことや、わかっていることでも他者と価値観をすり合わせることによって、考え方の幅を広げよう。 わからないことはそのままにせず、必ず資料・筆記用具を持って相談して下さい。		
成績評価基準		
提出物（期限厳守・内容）60% 授業態度 30% 出席 10%		
授業計画表		
1～4 : 実習オリエンテーション（概要と目的） 5～8 : 記録の書き方 日誌（客観・主観・要約・ 9 : I－① 6 月 30 日事前訪問 10～16: I－①の到達させることと目標 17 : I－②夏休み中の事前訪問について 18～25: I－②の到達させることと目標 26 : カンファレンス・報告・連絡・相談について 27～28: I－②事前指導 29～31: I－②事後指導 32～35: 実習振り返り 36～38: 自分の価値観と自己覚知		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規出版 社会福祉士法人大阪ボランティア協会『福祉小六法 2022』中央法規出版		

講 義 要 綱

r 学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
介護実習 I	2 7 日	2 1 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
柳沼 輝己	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
① 高齢者や障害者と関わりながら、人間関係形成・信頼関係のあり方を学び、利用者の生活を知る。 ② 利用者を知ろうと意識して関わる中で、その人らしさとは何かを考える。 ③ 基本的な介護行為を見学・体験する中で身体・生活状況に合わせた介護実践のあり方について学ぶ。 ④ 施設の役割を知り、安心できる生活の場を提供する施設運営のあり方について学ぶ。 ⑤ 誰に対しても伝わる、利用者の様子や学んだ内容が伝わる記録の書き方を学ぶ。 ⑥ 指導を振り返り、自分自身の課題を客観的に把握することで自己覚知につなげる。		
到達目標		
1. 利用者と専門職として信頼関係を構築する関り方を学ぶ。 2. 生活状況を観察するなかで、その人のことを知る情報収集の仕方を学ぶ。 3. 学んだ知識・技術に基づき介護を体験することで技術を習得する。 4. 介護福祉士の役割・求められていることを知る。 5. 様々な介護施設の役割や機能、そこで働く多職種の役割を知る。 6. 自分以外の生活観・価値観がある事を知り、QOL とはなにか考え方の幅を広げる。		
受講の心構え		
学習した知識や技術を実践的に理解・習得する機会です。実習では初めての経験をたくさんします。この機会に目指す介護福祉士像をイメージできるようになりましょう。		
成績評価基準		
介護実習評価 40% 日誌 20% ケーススタディ 20% レポート 20%		
授業計画表		
1. 介護実習 I -①8 月 28 日～9 月 8 日 10 日間 計 10 日間 (80 時間) 実習施設：通所介護・通所リハビリ・認知症対応型共同生活介護 特定施設入居者生活介護（経費老人ホーム・ケアハウス） 小規模多機能型居宅介護・障害者支援施設など 2. 介護実習 I -②11 月 9 日～ 12 月 1 日 17 日間 (136 時間) 実習施設：介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 介護老人保健施設・障害者支援施設など		
使用テキスト・参考文献		
実習の手引き （学校配布資料） 介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講 10 介護総合演習・介護実習』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こころの理解	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡辺 舞	－	
科目のねらい		
人のこころの基本的なしくみとして、「こころのしくみの基礎」「人間の欲求」「自己実現と尊厳」の 3 つの領域について理解を深めていきま		
到達目標		
1. 人のこころの基本的なしくみについて学び、説明できるようになる。 2. 介護現場で活用できる知識を習得し、現場で活用できるようになる。		
受講の心構え		
プリントはノート代わりの書き込み式です。各自ファイル等を準備してください。 プリントは最終授業の時に提出してもらい、評価の対象とします。		
成績評価基準		
試験評価 80%・プリント提出 10%・授業への参加度 10%		
授業計画表		
1. オリエンテーション（授業のスケジュール・評価方法）／こころとはなにか？ 2. 感覚・知覚のしくみ／見ること・聞くことのしくみを理解する 3. 学習のしくみ／動物実験から行動のしくみを理解する 4. 記憶のしくみ 1／記憶実験から記憶の種類を理解する 5. 記憶のしくみ 2／脳と記憶のしくみを理解する 6. 思考のしくみ／問題解決から思考のしくみを理解する 7. 感情のしくみ／感情の生起するしくみを理解する 8. 認知のしくみ／知能のしくみと発達を理解する 9. 欲求・動機のしくみ 1／欲求と動機の種類を理解する 10. 欲求・動機のしくみ 2／フラストレーションとストレスについて理解する 11. 適応のしくみ 1／自分を守るしくみを理解する 12. 適応のしくみ 2／人格と適応のしくみを理解する 13. 自己実現と尊厳のしくみ 1／ライフステージを理解する 14. 自己実現と尊厳のしくみ 2／自己実現と尊厳、生きがいについて考える 15. 「こころの理解」のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』 中央法規		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
からだの理解	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢野 由紀	－	
科目のねらい		
介護を提供するには利用者さんの持つ障害や疾患を理解することが欠かせません。 そのためには基盤となるからだのしくみや働きを知ることが必要です。 介護現場で日常的に使われる専門用語を含め、基本的な身体各所の名称・機能を学んでいきます。		
到達目標		
1. 人体・各器官の名称や位置、基本的構造を知る。 2. 人体・各器官のはたらきを理解できる。 3. 各器官で起こりやすい代表的疾患・症状を知る。		
受講の心構え		
聞き慣れない言葉が多く、覚えることが主となりますが、他の講義や実習等・身の回りにおいても今後必要となる知識です。まずは自分のからだを理解するつもりで理解に励んでください。		
成績評価基準		
出席状況・受講態度 40%、筆記試験 60%の割合で総合評価します。		
授業計画表		
1. 人体とは 2. 身体の支持と運動 3. 筋骨格系器官のしくみと働き① 4. 筋骨格系器官のしくみと働き② 5. 調節器系器官のしくみと働き① 6. 調節器系器官のしくみと働き② 7. 感覚器系器官のしくみと働き① 8. 感覚器系器官のしくみと働き② 9. 呼吸器系器官のしくみと働き 10. 循環器系器官のしくみと働き 11. 消化器・代謝系器官のしくみと働き① 12. 消化器・代謝系器官のしくみと働き② 13. 排泄系器官のしくみと働き 14. 生殖・免疫系器官のしくみと働き 15. まとめ ※進行状況により内容を変更することがあります。 ※スライドとテキストを併用し講義を進めていきます。		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版 坂井達雄 橋本尚嗣『ぜんぶわかる人体解剖図』成美堂出版 随時スライド等の資料を配付します。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こころとからだのしくみⅠ	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
赤坂 結美子	—	
科目のねらい		
1.介護士に必要な健康観を養うことができる。 2.介護実践に必要な観察力・判断力の基盤となる、こころとからだのしくみについて学習する。 2.日常生活動作(整容・清潔・排泄)のしくみと心身の機能低下が及ぼす影響について学習する。 3.日常生活動作に関連した異常の早期発見につながる観察ポイントを学習する。		
到達目標		
1.心身の構造や機能、こころについて考えることができる。 2.異常や変化を判断、報告するために必要な通常(普通)の状態がわかる。 3.身体機能の低下が日常生活動作に及ぼす影響についてわかる。		
受講の心構え		
1. 介護実践のエビデンスとなる、こころとからだのしくみを理解することは、自身の介護力を高める大きな力となります。「なぜその介護が必要なのか」の視点を大切に学習を進めていきましょう。 2. 国家試験を意識し、授業中に5分～10分程度の確認テストを実施します。		
成績評価基準		
試験(70%)、確認テスト・提出物・授業態度(30%)		
授業計画表		
1 こころのしくみの理解 1) 健康の概念 2～6 からだのしくみの理解 1) 生命を維持するしくみ 2) 生命兆候としてのバイタルサイン 7～10 移動に関連したこころとからだのしくみ 1) 移動のしくみ 2) 機能の低下・障害が移動に及ぼす影響 3) 移動に関するこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携 11～13 食事に関連したこころとからだのしくみ 1) 食事のしくみ 2) 機能の低下・障害が食事に及ぼす影響 3) 食事に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携 14～15 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「介護福祉士養成講座：11 こころとからだのしくみ」中央法規		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
発達と老化の理解（人間発達学）	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
川島 志緒里	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
介護福祉士として高齢者を介護する姿勢を学ぶために、人間の発達段階と課題、高齢者を取りまく今日的課題を学ぶ中で、人間としての尊厳の保持、高齢者観を確立していき、高齢者と向き合う姿勢と態度の基本を身につけます。		
到達目標		
発達の概念と生涯発達の特徴と課題を理解し、疾病や障害を抱える高齢者の、人間としての尊厳と存在意義を自分の言葉で説明できるようになります。誕生から青年期までの社会性と道徳性の発達について理解し、介護福祉士として働く意義と役割を理解します。多職種との連携の重要性を理解し実践方法を習得します。		
受講の心構え		
配布資料は各自でファイリングしノートを作成してください。 「自分はこう思う」「自分ならこうする」を意識しながら積極的に授業に参加してください。		
成績評価基準		
期末テスト 80% 出席点・授業態度・授業に向き合う姿勢 20%		
授業計画表		
1. 成長・発達の考え方と原則・法則について 2. 成長・発達に影響する遺伝的要因と環境的要因について 3. 発達段階とそれぞれの発達課題について 4. 身体的機能と成長と発達について 5. 心理的機能の発達について 6. 社会的機能の発達について 7. 老年期の定義と老化について 8. 老年期の発達の課題について 9. 老年期をめぐる今日的課題について 10. 老化に伴う心理的な変化と生活への影響 11. 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 12. 健康長寿に向けての健康づくりについて 13. 保健医療職をはじめ多職種との連携の重要性について 14. 授業内容のまとめ 15. 授業内容の振り返りと弱点の見直し		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会 編集「介護福祉士養成講座 1 2」中央法規出版 必要に応じて資料配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
発達と老化の理解（老齢健康論 1）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
奥野 啓子	－	
科目のねらい		
① 老化に伴う心身の特徴と、高齢者に多く見られる疾患の基礎知識を学習する。 ② 高齢者の生活上の留意点について学習し、援助の基本的考え方について学習する。		
到達目標		
① 老化に関する心身機能の変化や代表的な疾患の基礎的な知識を習得する。 ② 医療との連携の必要性がわかる。 ③ 演習等を通して具体的にイメージできる。		
受講の心構え		
課題は授業や自己学習を基に作成してください。		
成績評価基準		
筆記試験 90%、課題（筆記試験終了後に回収します）10% 平常点加減あります。		
授業計画表		
1. 老化に伴う身体的な変化と生活への影響 2. 高齢者の免疫機能の変化、感覚機能の変化と日常生活への影響 3. 効果に伴う筋・骨・関節の機能の変化と日常生活への影響 4. 高齢者の咀嚼機能と消化機能の変化と日常生活への影響 5. 高齢者の循環器と呼吸器の機能の変化と日常生活への影響 6. 老化に伴う泌尿器と体温維持機能の変化と日常生活への影響 7. 高齢者の痛み（腹痛・骨・筋肉・関節）と日常生活への影響 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解』中央法規 初回授業時に資料をまとめて配布します。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
認知症の理解 I	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
宮下 史恵	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
認知症の病態を学び理解を深めるとともに、認知症の人の理解を深めていきます。 さらにコミュニケーションやケアについて学修し、介護福祉士としてのスキルを身につけます。		
到達目標		
① 認知症の基礎的知識、症状、診断、治療、評価法、予防について学修する。 ② 認知症の人の特性、心理、状況に応じたケアの理念と接し方について学修する。 ③ 認知症の人のケアにおける介護福祉士の役割と重要性について理解する。		
受講の心構え		
認知症について基礎的理解を深め、尊厳の保持を念頭におきケアの重要性を習得してください。		
成績評価基準		
筆記試験 70% レポート 20% 授業参加貢献 10%		
授業計画表		
1. イントロダクション 講義要綱の説明 認知症とは何か 2. 認知症の定義、脳のしくみと認知症の特徴 3. 認知症の症状（中核症状と生活障害、MMSE・HDS-R 評価方法） 4. 認知症の症状（BPSD、IADL、ADL、認知症診断、重症度評価方法） 5. 認知症の診断と治療・予防、認知症の画像診断、日常生活自立度判定基準、CDR、FAST 6. 認知症の原因疾患と特徴（アルツハイマー型認知症・血管性認知症） 7. 認知症の原因疾患と特徴（レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症・その他） 8. 認知症・ケアの歴史と理念（新オレンジプラン、認知症施策の変遷、地域包括ケア、認知症サポーター） 9. 認知症の人の心理と思い 10. 認知症ケアの実際（パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード） 11. 認知症ケアの実際（アセスメント、ケアマネジメント、センター方式、ひもときシート） 12. 認知症ケアの実際（コミュニケーション、バリデーション、認知症ケアマッピング、回想法） 13. 認知症ケアの実際（ADL・IADL のケア、終末期状態の特徴と支援、家族介護者の心理過程の理解） 14. 認知症ケアの実際（BPSD のケア、認知症の人へのケアの原則、レスパイトケア） 15. まとめ（認知症の人のケア）		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』中央法規出版。 中央法規出版編集部『福祉用語辞典』中央法規出版 その他、必要に応じて授業時に資料を配布		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害の理解（障害福祉総論）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
高澤 淳子	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として 5 年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障害のとらえ方・各法律での定義等の基本的な知識や、当事者主体の生活を支える法制度や社会のしくみについて理解し、障害者福祉の理念に基づいた介護福祉士のあり方について考えることができる。		
到達目標		
1. 障害の概念や障害者福祉の基本理念について理解する。 2. 障害者福祉に関する制度の全体像を理解する。 3. 当事者主体の自立した生活を支える介護福祉士の役割について考える。		
受講の心構え		
障害者が障壁を感じない社会とはどのような社会か、その実現のために私たちは何ができるのか等、当事者意識を持って考えながら学んでください。		
成績評価基準		
筆記試験 70%、提出物・授業態度 30%		
授業計画表		
1. オリエンテーション/障害のとらえ方〈ICIDH、ICF〉 2. 障害者の定義/障害者福祉の基本理念①〈ノーマライゼーションとリハビリテーション〉 3. 障害者福祉の理念②〈エンパワメント・ストレングス〉 4. 障害者福祉の理念③〈アドボカシー・インクルージョン〉 5. 障害者福祉の理念④〈国際障害者年・障害者権利条約〉 6. 障害者福祉に関連する制度〈障害者総合支援法・障害者差別解消法〉 7. 障害者福祉に関連する制度〈障害者虐待防止法・障害者の就労支援/介護保険制度との関係性や違い〉 8. まとめ 〈障害者福祉の理念の実現を支える介護福祉士の役割を考える〉		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害の理解 （障害福祉各論Ⅰ）	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
古山 和	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
各障害を理解し、その生活をイメージしながら、当事者主体の生活を支えるために必要な支援について考え、支援を実践できる介護福祉士を目指す。 障害のある人の社会参加を支えるために、活用できる社会資源や介護福祉士の役割について考えることができる。		
到達目標		
1. 各障害の理解に必要な基礎知識を学び、状態像を理解できる。 2. それぞれの障害が生活にどのような影響を及ぼすのかについて理解できる。 3. 様々な障害のある人とその家族への支援において、介護福祉士が担うべき役割が理解できる。		
受講の心構え		
それぞれの障害を理解し、当事者の充実した生活・人生を支えるために、介護福祉士の担うべき役割について考えながら学びましょう。		
成績評価基準		
筆記試験70%、提出物・授業態度30%		
授業計画表		
1 オリエンテーション／肢体不自由の理解① 2 肢体不自由の理解② 3 肢体不自由の理解③ 4 視覚障害の理解 5 聴覚・言語障害、重複障害の理解 6 重症心身障害の理解 7 家族への支援の意味とあり方 8 まとめ ＜障害のある人に必要な支援と介護福祉士のあり方＞		
使用テキスト・参考文献		
介護福祉士養成講座編集委員会『最新介護福祉士養成講座14 障害の理解』中央法規出版		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
手話	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
町田 幸作	－	
科目のねらい		
1. 手話を学ぶことによって、視覚的コミュニケーションの技術を身に付ける。 2. 聴覚障害についての理解を深め、介護実践力につなげる。		
到達目標		
1. 手話によるコミュニケーションの基礎を学ぶ 2. 初歩的な手話会話ができるようになる		
受講の心構え		
手話は、手だけでなく顔の表情や体の仕草すべてを使って行う言葉です。積極的な実践・参加を求めます。		
成績評価基準		
実技試験点数に授業態度や授業への参加状況などの平常点を加味して評価する。		
授業計画表		
1. オリエンテーション 名前 自己紹介 数字 2. 手話概論 あいさつ 3. 数詞の表現 指文字 4. 趣味の表現 5. 職業の表現 6. 時に関する手話表現① 7. 時に関する手話表現② 8. 疑問・地名・気候の表現 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
『さっぼろの手話』札幌聴覚障害者協会		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習Ⅰ	10 回	20 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄	—	
科目のねらい		
自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。		
到達目標		
字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。		
受講の心構え		
伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。		
成績評価基準		
まとめの試験 60％ 小テスト 20％ 授業姿勢 20％		
授業計画表		
1. ひらがな、カタカナ、よく使う字について練習する。愛読書について。 2. 同音異義語などについて理解し、練習する。 3. 同訓異義語などについて理解し、練習する。 4. 慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。 5. ことわざについて知る。 6. 四字熟語が読めて、意味を知る。 7. テーマに合った文章を書く。 8. 個人票、履歴書の様式を理解し、下書きをする。 9. 個人票、履歴書を作成する。 10. 手紙、はがきの書き方をしる。まとめの試験をする。		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論 I	1 0 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
三品 あおい		
科目のねらい		
この科目では社会人としての信頼の土台であるマナーを身につける。 実習に入った際に実践できる、気持ちの良い挨拶・表情・身だしなみや敬語・電話応対等を身につける。		
到達目標		
「挨拶」「身だしなみ」「言葉づかい（敬語）」と言った、社会人として必須なことを、日々の学校生活から実践する		
受講の心構え		
応対論は社会に出る前の練習の場であるので、授業で学んだことを積極的に実践して習慣にしましょう。 挨拶や敬語などマナーは他の教科や日常生活でも身につきます。 欠席した場合は、次の授業で支障がないように、事前に他の学生のノートやテキストで確認しましょう。		
成績評価基準		
筆記試験 2 5 % ・実技試験 2 5 % ・平常点（授業での取り組み 5 0 %）の総合評価		
授業計画表		
1. 円滑な人間関係を築くためのマナー・第一印象とは 2. 好感を持たれる基本マナー（挨拶・お辞儀等） 3. 正しい言葉づかい（敬語等） 4. 介護職に求められるマナー（守秘義務・SNS 等） 5. 利用者様・ご家族へのマナー（訪問・電話応対等） 6. 職場でのマナー（報連相・整理整頓等） 7. 職場でのマナー（来客応対・名刺交換等） 8. 社会で役立つマナー（冠婚葬祭・お礼状等） 9. 社会で役立つマナー（食事のマナー） 10. まとめ・試験		
使用テキスト・参考文献		
篠田弥寿子著 「ケアワーク・スキルアップ②心に手の届くマナーと声かけ」学研		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
パソコン演習	1 5 回	3 0 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
忽滑谷 亨鶴舞	－	
科目のねらい		
Word・Excel・PowerPoint の基本的技術の習得を目指す。 また、現場を意識した実践的な内容に取り組むことにより、その必要性和利便性を再確認する。		
到達目標		
Word・Excel・PowerPoint が実務で活用できる知識と技術を習得する。		
受講の心構え		
・ 演習中心の授業につき、意欲的に課題作成に取り組むこと。 ・ 配付資料はファイリングすること。		
成績評価基準		
テスト・授業態度を総合的に評価する。		
授業計画表		
1 授業の進め方（目的と意義） Windows の理解 スキルチェック（シート記入） 2 Word 1（文書入力演習Ⅰ：書式設定、オプション設定） 3 Word 2（文書入力演習Ⅱ：ビジネス文書、ページ設定） 4 Word 3（文書入力演習Ⅲ：罫線入りビジネス文書など） 5 Word 4（文書入力演習Ⅳ：図形描画、テキストボックスなど） 6 Word 5（文書入力演習Ⅴ：仕事でよく使う文書、介護日誌の作成パターン） 7 Excel 1（表作成Ⅰ：入力、四則演算、オートフィル、基本関数の処理） 8 Excel 2（表作成Ⅱ：構成比・達成率、相対セル・絶対セル、罫線、列幅） 9 Excel 3（表作成Ⅲ：論理・日付関数、表示形式、ユーザ設定） 10 Excel 4（表作成Ⅳ：表作成とグラフ、スパークライン、図グラフ） 11 Excel 5（表作成Ⅴ：Excel で文書を作成） 12 PowerPoint 1（プレゼンテーションⅠ：基本操作、スライド編集、デザイン） 13 PowerPoint 2（プレゼンテーションⅡ：アニメーション、画面切り替え） 14 PowerPoint 3（プレゼンテーションⅢ：スライドショー、リンク、ワードアート） 15 Word のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
実教出版株編集部『30 時間でマスター Word&Excel 2010』実教出版株式会社		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
体育 I	8 回	1 5 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄	－	
科目のねらい		
身体活動を通して、心身の健康保持の大切さをしる。体力の向上とともに、公正・協力・責任などの態度を養う。生涯を通して、生活を豊かにするために、スポーツに親しむ態度や能力を養う。		
到達目標		
運動に臨む態度や約束事を理解し実践する。各種の運動やスポーツに親しむことができる。全校球技大会に受けて、協力し練習することができる。		
受講の心構え		
授業準備、用具の準備、後片付け、運動への積極的な取り組みを期待します。		
成績評価基準		
授業姿勢 30% 運動への取り組み 40% 運動技能 30%		
授業計画表		
1. 授業を進める上での約束事・取り組む姿勢の確認。ミニバレーボールに親しむ。 2. バレーボールに親しむ。(ルールの理解、サーブ、レシーブ、トス、スパイク) 3. バレーボールに親しむ(ゲームなど) 4. 長縄跳びをする。バドミントン(シングルス)に親しむ(ルールの理解、基本練習) 5. バドミントン(シングルス)に親しむ。(ゲームなど) 6. キックベースボールに親しむ。 7. 卓球(シングルス)に親しむ。(ゲームの理解、基本練習、ゲームなど) 8. 卓球(シングルス)に親しむ。(ゲームなど)		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付する。		

講 義 要 綱

学科・コース	年次	授業形態
介護福祉科	1 年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンスⅠ	2 回	4 時間
担当者氏名	担当者実務経験	
長屋 敦志	授業内容にかかわる実務に介護福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
自分の将来を創造する 卒業生の就職活動体験などの見聞を通じ、自身の進路選択を想像する。 希望する進路の実現のために、自分自身に不足しているものは何か知り、内定に向けた取り組みが実践できる。		
到達目標		
1. 進路（希望施設・種別・地域など）について考える。 2. 卒業生の就職活動体験を参考に、就職に対する主体的意欲を持つ。 3. 希望進路実現に向けた、計画的な取り組み、具体的行動を考える。		
受講の心構え		
どこで働きたいかイメージすることで、いつ・どこで・何に取り組むのか明確にして、希望進路の実現を目指しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする		
授業計画表		
1 就職ガイダンス オリエンテーション 進路希望調査と就職に関する疑問調査 2 就職座談会 ～ 卒業生の体験談をもとに自分の将来をイメージする		
使用テキスト・参考文献		
学校資料配布		